



2025年2月19日開催 日立東大ラボ・産学協創フォーラム
「Well-beingとスマートシティ」

日立東大ラボからの報告

唐沢かおり

東京大学

大学院人文社会科学研究科 教授

WG3の ミッション

Human well-beingの解明 ⇒ Urban Well-beingへ
～どう把握できるか、何によって決まるか、どうあるべきなのか～

1

Well-being (WB) 概念に関する研究の動向

「WBとは何か」という問いに対するアプローチ

- 1-1. 測定尺度の観点から
- 1-2. 規定要因の観点から
- 1-3. 実務場面の要請の観点から

2

日立東大ラボによるオンライン調査

- | | |
|---------------------|---------------------|
| (1) 人々が重視する領域 | (5) コミュニティ提供に対する受容性 |
| (2) 些細な幸福体験の影響 | (6) 交通環境におけるWB要因 |
| (3) まちづくり参加とWBの関係 | (7) 歩行環境におけるWB要因 |
| (4) 町内会におけるAI導入の受容性 | (8) 倫理的・社会的課題 |

1-1. Well-beingとは：測定尺度の観点から

- Well-beingの概念自体が多角的・包括的であり、複数の諸概念から構成されている
- 国内外の学術論文から、尺度項目を抽出して整理

生きがい

【A1】生きがい感スケール (1998); 【A2】生きがい認知尺度 (2001); 【A3】生きがいプロセス尺度、生きがい状態尺度 (2003); 【A4】Purpose-in-life (PIL) テスト (1964); 【A5】生きる意味への問い経験尺度 (2015); 【A6】生きがい意識尺度 (Ikigai-9, 2012)

感情

【B1】ポジティブ・ネガティブ感情尺度 (1984); 【B2】気分評定尺度 (PANAS, 1998); 【B3】一般感情尺度 (2000); 【B4】簡易気分調査票日本語版 (BMC-J, 2008); 【B5】感情のwell-being尺度 (2011); 【B6】感情調節 (Emotion Regulation Questionnaire) 日本語版 (2013)

幸福

【C1】ハッピネス尺度 (1992); 【C2】主観的幸福感尺度 (2003); 【C3】日本版主観的幸福感尺度 (Subjective Happiness Scale: SHS, 1999); 【C4】協調的幸福感尺度 (2015); 【C5】母親の育児幸福感尺度 (2007); 【C6】規範的幸福感尺度 (2013); 【C7】キャリア幸福度尺度 (2023); 【C8】職場における主観的幸福/不幸福感因子尺度 (2022); 【C9】日本版HEMA尺度 (2014); 【C10】日本語版幸せへの恐れ/壊れ易さ尺度 (2021)

ウェルビーイング

【D1】心理的Well-being尺度 (2000); 【D2】Well-being促進行動目録 (2015); 【D3】ラグジュアリー消費と関連した主観的Well-being尺度 (LC-SWB, 2017); 【D4】消費における主観的Well-being4類型尺度 (SWB-QSIC, 2021); 【D5】日本語版エウダイモニック・Well-being尺度 (2010); 【D6】日本語版 Valuation of Life (VOL) 尺度 (2015); 【D7】主観的活力尺度 (2015)

QoL

【E1】General Health Questionnaire (GHQ, 1997); 【E2】SF-36 (1998); 【E3】社会福祉関連QOL測定尺度 (2015); 【E4】主観的安寧感尺度 (2004); 【E5】食に関する主観的QOL (2013)

主観的健康度

【F1】General Health Questionnaire (GHQ, 2013); 【F2】精神健康状態 (WHO-5, 2013); 【F3】主観的健康感尺度日本語版 (1995); 【F4】ハーディネス尺度 (2008); 【F5】日本版健康関連ハーディネス尺度 (2006); 【F6】健康関心度尺度 (2021); 【F7】東大式自記健康調査票 (THI, 1998); 【F8】主観的健康感 (2004)

満足度

【G1】The Satisfaction With Life Scale (SWLS, 1985); 【G2】人生に対する満足感質問紙 (1999); 【G3】生活満足感尺度 (2017); 【G4】家庭満足感尺度 (2017); 【G5】生活満足感尺度 (2002); 【G6】夫婦関係満足度 (2012); 【G7】友人関係満足度 (2001); 【G8】恋愛関係満足度 (2015); 【G9】ワーク・ファミリー・エンリッチメントの日本語版尺度 (2006)

自尊心

【H1】自尊感情尺度 (1965); 【H2】2項目自尊感情尺度 (2013); 【H3】状態自尊感情尺度 (2007); 【H4】日本語版状態自尊心尺度 (2016); 【H5】日本語版集団自尊心尺度 (1995); 【H6】潜在的自尊心IAT (2014); 【H7】自尊心IAT (2022)

その他

【I1】特性感謝尺度 (2002); 【I2】日本語版強み活用感尺度 (SUS, 2007); 【I3】日本語版強み認識尺度 (SKS, 2015); 【I4】楽観・悲観性尺度 (2013); 【I5】改訂版楽観性尺度 (Revised Life Orientation Test, 2002); 【I6】日本版ホープ尺度 (2005); 【I7】身体感覚受容感尺度 (2009); 【I8】二次元レジリエンス要因尺度 (2010); 【I9】家族レジリエンス尺度 (2006); 【I10】キャリアレジリエンス尺度 (2015); 【I11】道徳的態度尺度 (2017); 【I12】道徳的感受性質問紙日本語版 (2012); 【I13】特性的自己効力感尺度 (1995); 【I14】人格特性的自己効力感尺度 (2003)

清水ほか (2024).
主観的ウェルビーイングおよび近接概念に関する尺度の現状
人間環境学研究, 22(1), 81-90

1-2. Well-beingを規定する要因

- 国内外の学術論文から、WBの規定要因を抽出
- 健康状態、所得・SES、婚姻状況、社会的交流、パーソナリティなどが同定されている

健康状態

- 先進国 ($r = .34$) よりも途上国 ($r = .42$) の方が相関が高い
 - 幸福度 ($r = .30$) よりも人生満足度 ($r = .36$) との相関が高い
- Ngamaba et al. (2017)

所得、SES (社会経済的背景)

- 所得や社会・経済的地位が高いほど、幸福度が高く、健康状態も良い。一方で高学歴男性は鬱病になりやすい
- Chevalier & Feinstein (2006)

婚姻状況

- 一般的に、既婚者は人生満足度が高く、心理的健康も高い
→ 幸福な人は結婚しがちなため、因果方向は不明確
- Dolan et al. (2008)

社会的交流

- 負の要因として、他者との分離、失業、社会的交流の欠如、差別を向けられることなどが挙げられている
- Dolan et al. (2008); Schmitt et al. (2014)

パーソナリティ

- Big5の中では、神経性傾向、外向性、協調性が強く関連する
 - 楽観性・ポジティブ志向は、幸福感に強く関連する (下図)
- DeNeve & Cooper (1998)
橋本・子安 (2012)

1-3. 自治体・調査会社のWB指標

- 実務で使用されている10種類のWB指標 (計386項目) の質問内容进行分析
- 社会とのつながりに関する質問が突出、「生きる意味・価値の追求」に関する内容も散見

- WB評価領域を17種類抽出し、領域毎に質問項目の数を集計

分析対象の10種類のWB指標

1. Liveable Well-Being City指標® (SCI-Japan)
2. いわて幸福度指標 (岩手県)
3. 荒川区民総幸福度 (東京都荒川区)
4. 浜松市民意識調査 (静岡県浜松市)
5. 富山県ウェルビーイング指標 (富山県)
6. 高知県民総幸福度 (しあわせ推進会議)
7. 山口市まちづくり指標 (山口県山口市)
8. 60のウェルビーイング指標™ (朝日広告社)
9. MRI版ウェルビーイング指標 (三菱総研)
10. 生活者ウェルビーイング21因子 (博報堂)

WB
評価
領域

結果については
当日の投影にて報告

質問項目の数

論文査読中 (Kudo et al.) のため引用不可

WG3の ミッション

Human well-beingの解明 ⇒ Urban Well-beingへ
～どう把握できるか、何によって決まるか、どうあるべきなのか～

1 Well-being (WB) 概念に関する研究の動向

「WBとは何か」という問いに対するアプローチ

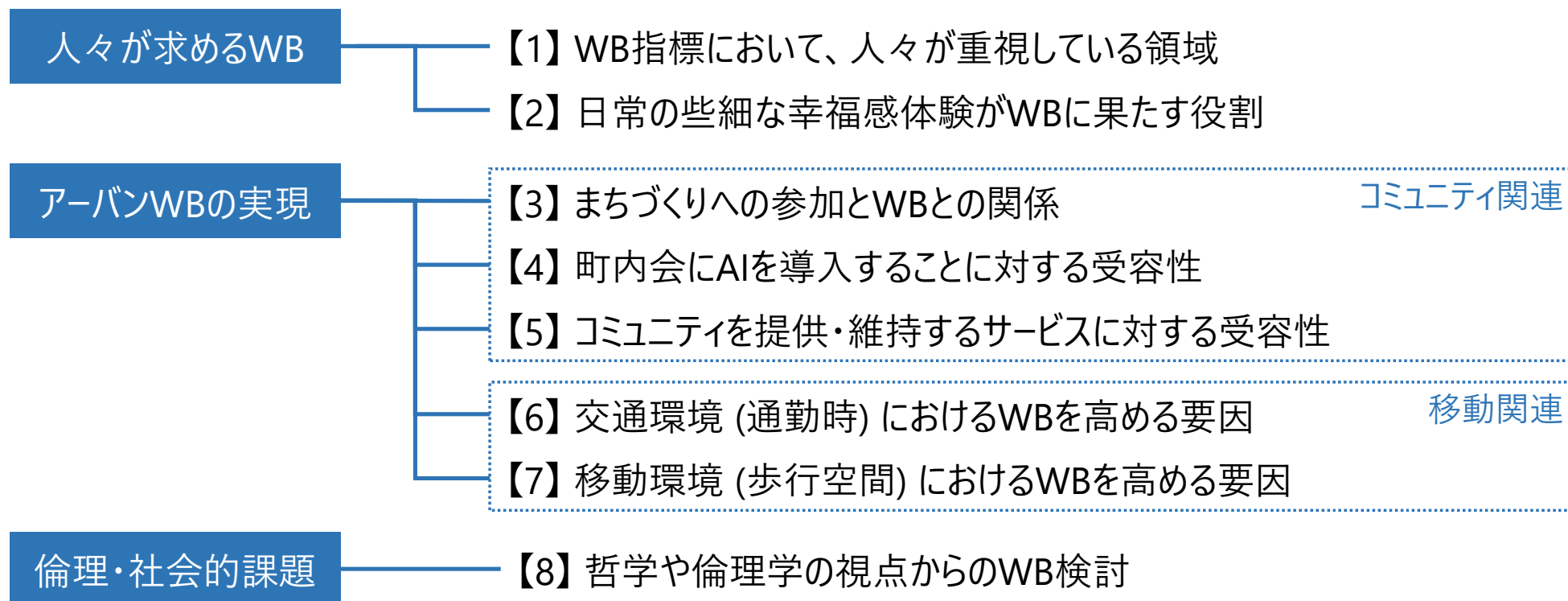
- 1-1. 測定尺度の観点から
- 1-2. 規定要因の観点から
- 1-3. 実務場面の要請の観点から

2 日立東大ラボによるオンライン調査

- | | |
|---------------------|---------------------|
| (1) 人々が重視する領域 | (5) コミュニティ提供に対する受容性 |
| (2) 些細な幸福体験の影響 | (6) 交通環境におけるWB要因 |
| (3) まちづくり参加とWBの関係 | (7) 歩行環境におけるWB要因 |
| (4) 町内会におけるAI導入の受容性 | (8) 倫理的・社会的課題 |

2-1. 検討項目の一覧

- WBの実現に重要と考える3つのテーマ (合計8プロジェクト) を抽出
- オンライン調査に基づき人々の意識を分析



2-6. 検討【8】：倫理的・社会的課題

- 幸福概念に関する哲学・倫理学の理論・モデルを整理
- 科学技術ELSIの議論も踏まえながら、WB向上を目指した介入の際に抑えるべき論点を整理

多様性

多様な価値を反映できているか？

【個人レベルのWB】

- 単一要素 (快楽や自己実現など) が多様なWB要素を反映できているか
- 少数派の価値を無視していないか
- 地域間で不公平が生じないか

【社会レベルのWB】

- 文化的な価値を損なうことはないか
- 社会全体の在り方の視点はあるか

適切性

WBの内容を検討できているか？

【判断基準】

- 快楽や欲求を優先するのは適切か
- 長期的なWBに対する重み付けは
- WBの保障とサービスの切り分けは
- 公的な要素 (道德面や他者貢献) は、どの程度考慮すべきか

【基準の決め方】

- 上記したような判断基準を、どのように決めるべきか

正当性・公平性

介入は妥当であるか？

【正当性】

- トップダウン的な進め方で問題ないか
- どの程度までの介入なら許されるか
- 未認識のWB要素への欲求はないが、それで良いのか

【公正性】

- WBの格差が広がらないか
- リソース分配は公平とみなされるか
- 介入されない自由は保障されるか
- 未来世代のWBをどう考えるか

参考：JST/RISTEX RInCAプログラム 科学技術ELSIにおける根源的問い（科学技術 - 人のより良い関係構築のために問うべきこと）
<https://www.jst.go.jp/ristex/rinca/discours/elsi-keywordmap/index.html>

WG3の ミッション

Human well-beingの解明 ⇒ Urban Well-beingへ
～どう把握できるか、何によって決まるか、どうあるべきなのか～

WBが実現する 社会を作る

- 課題**
- 特定の社会課題・社会介入に対応し、適切な問いの構成と実証的検討が必要
 - ラボ全体の目標に即した、次年度WG3の活動検討への展開
 - 人々に関するデータを集めて実践者にFBする際のRRIとは？

イノベーションの促進とそれによる社会課題解決・社会のあるべき姿をWB実現の観点から検討する

WBが何か、どうあるべきかという問題設定→ローカルな課題や状況変化にアジャイルに対応しつつ、制度や技術の実装を展開する営みの中に組み込む「仕組み」自体の構築



概念工学的な発想が必要

人々の考えや態度を参照しつつ、社会における重要な概念であるWB概念をEngineering (工学)する

